

業績ハイライト（連結）

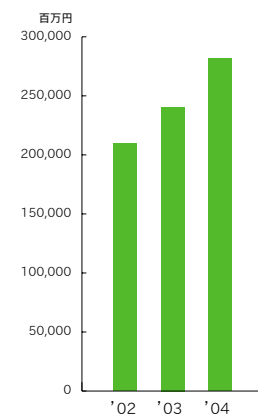
PERFORMANCE HIGHLIGHT

業績ハイライト（中間期）

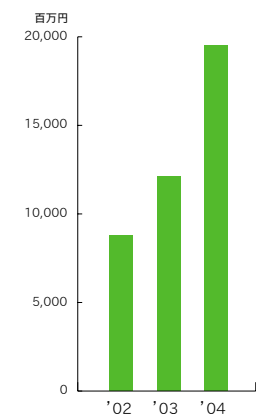
科 目	2002年度	2003年度	2004年度
売上高(百万円)	209,790	240,578	281,496
営業利益(百万円)	8,784	12,102	19,530
経常利益(百万円)	5,827	8,429	17,048
中間純利益(百万円)	2,333	5,027	9,045
1株当たり中間純利益(円)	8.63	18.64	34.03

*2004年度より「固定資産の減損に係る会計基準」及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」を適用しています。

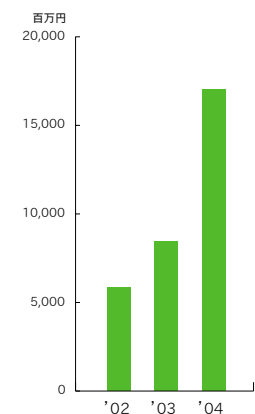
売上高



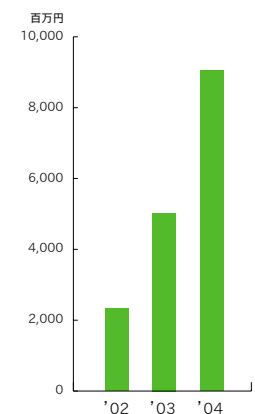
営業利益



経常利益



中間純利益

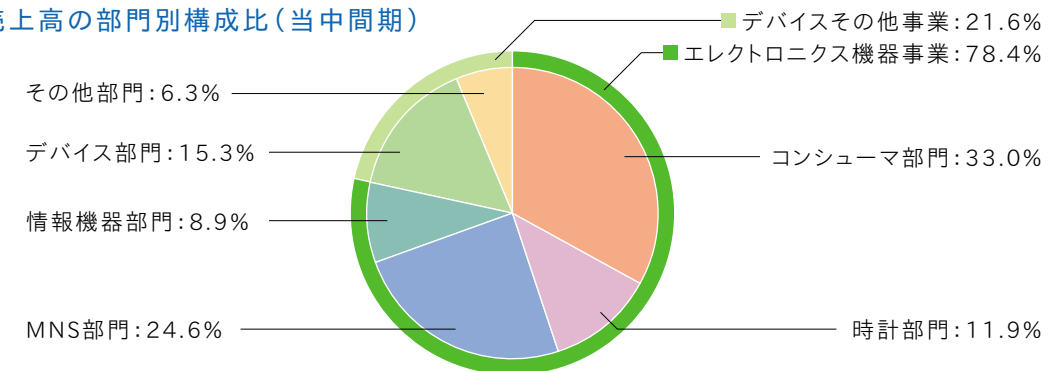


部門別の概況（連結）

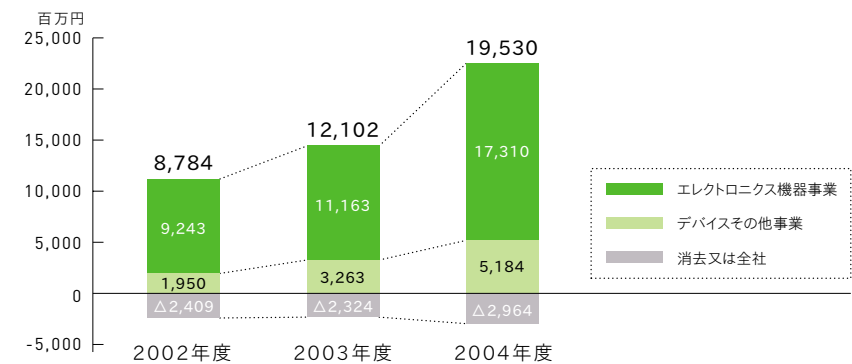
SEGMENT INFORMATION

戦略事業が好調に推移し、当中間期は売上高、営業利益、経常利益、中間純利益ともに増加となりました。各部門別の概況を、ご報告します。

売上高の部門別構成比（当中間期）



営業利益の概況（中間期）



部門別の概況（連結）

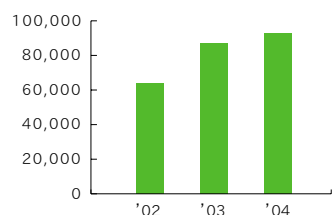
エレクトロニクス機器事業

コンシューマ部門

カードジャンル創造、大画面液晶搭載、長電池寿命実現など常にデジタルカメラ市場を牽引するブランドとして高い支持を得ている「EXILIM」が前期に引き続き好調に推移し、また、国内で圧倒的シェアを誇る電子辞書も韓国を始めとする海外展開により更に拡大するなど、ともに期初予想を上回る販売実績をあげました。

売上高(当中間期)
92,815百万円

中間期 売上高の推移(単位:百万円)

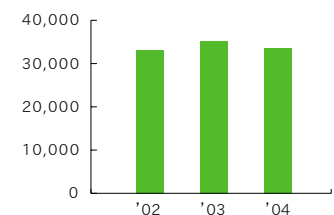


時計部門

電波機能とソーラー駆動を搭載した商品が着実に市場を拡げ昨年に引き続き好調に推移いたしました。一般モデルの比率を下げ、高付加価値ジャンルのラインアップ拡大による利益率重視の商品構成に変革し、利益面で大きく改善いたしましたが、売上高は減少となりました。

売上高(当中間期)
33,649百万円

中間期 売上高の推移(単位:百万円)

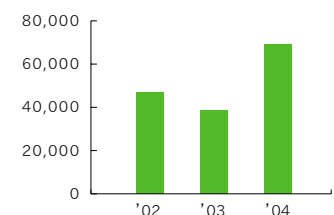


MNS部門

カメラ付き携帯電話では世界初の320万画素カメラを搭載した「A5406CA」が好調に推移すると共に、開発コストの削減とスピードの改善を目指す目的で本年4月に(株)日立製作所と設立した携帯電話の開発合弁会社「(株)カシオ日立モバイルコミュニケーションズ」の効果もあり、売上高は大幅増となりました。

売上高(当中間期)
69,283百万円

中間期 売上高の推移(単位:百万円)



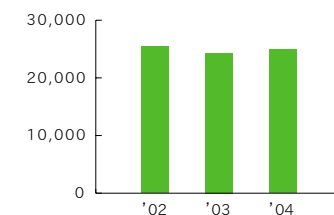
SEGMENT INFORMATION

情報機器部門

最適なハードウェアとアプリケーションを組み合わせたソリューション事業のビジネスモデル変革により、ページプリンタを中心に堅調に推移いたしました。

売上高(当中間期)
24,966百万円

中間期 売上高の推移(単位:百万円)



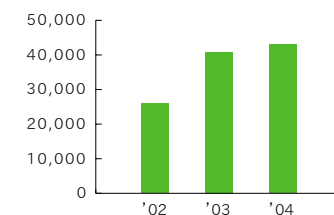
デバイスその他事業

デバイス部門

TFT事業がデジタルカメラ向けモニターで世界シェアにおいてトップを堅持するなど大きく売上を伸ばすと共に、カシオマイクロニクス(株)のフィルムデバイス、BUMP両事業も好調に推移いたしました。

売上高(当中間期)
42,988百万円

中間期 売上高の推移(単位:百万円)



その他部門

グループ会社の独自事業が、堅調に推移いたしました。

売上高(当中間期)
17,795百万円

中間期 売上高の推移(単位:百万円)

